

常射之卷

五

一貫流射術常射之卷五

目錄

鵠之部

大的 圖六品

半的

小的 圖二品

陰陽的

月並的

五色的

星

草鹿

圖二品

圓物

圖三品

武利武利

圖六品

卷藁

圖二品

射込桶

圖三品

一貫流射術常射之卷五

鵠之部

大的

流傳曰的ト云名ハ國史

日本紀續
日本紀

古記錄

延喜式
東鑑

古物語

宇治拾遺物語

等ニ見エタリ古昔ハ只的ト而已

云シヲ後世ニ小的ト云モノ出来小的ニ對シテ

大的ト云ナリサレハ大的ハ小的以來ノ名稱稱ナ

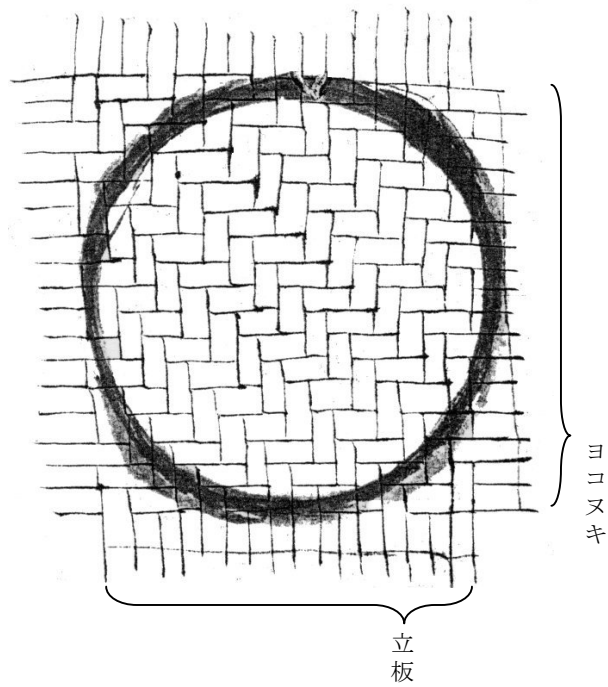
レハ大的ト云名其制作ノ精ク見ヘタルハ漸漸ク

足利時代小笠原家ノ古書鬮的聞書ニ大的ハ板

をうすくへきて廣サ一寸斗にしてひかきにくみ

てそれを五尺二寸に丸くすへし如斯してあつ
紙にて二重斗にはりて其上にこのりを引也か
やうにして繪を出すへしトアリ是レ古代ノ大
的ト云モノ制ハ今當ノ大的ノ制トハ異ナリテ
ヒトシカラス古ノ大的ハ檜ノ正目まさめノ能ク通タ
ルヲ撰ミ厚サ四五厘ニ薄ク批サキ幅ハ一寸斗長
ハ的ノ寸ニ順ヒテ不定又板数モ的ノ寸ニヨリ
テ何十枚モ並置キ此立板ト厚モ幅モ同シ横貫
キ入レヒカキニ組ミ的ノ心トスルナリヒカキ
トハ今當細代組ト云モノナリアシロノ組様皆

人ノ知タルモノナレト左ノ如シ



如右細代組ニシテ是ヲ經五尺二寸ニ朱引ノ如
ク端ヲタチテ丸クシテ厚キ紙ニテ表二枚斗裏
一枚張りテ的面ニハ胡粉ニ粘ヲ少シ加ヘテ水

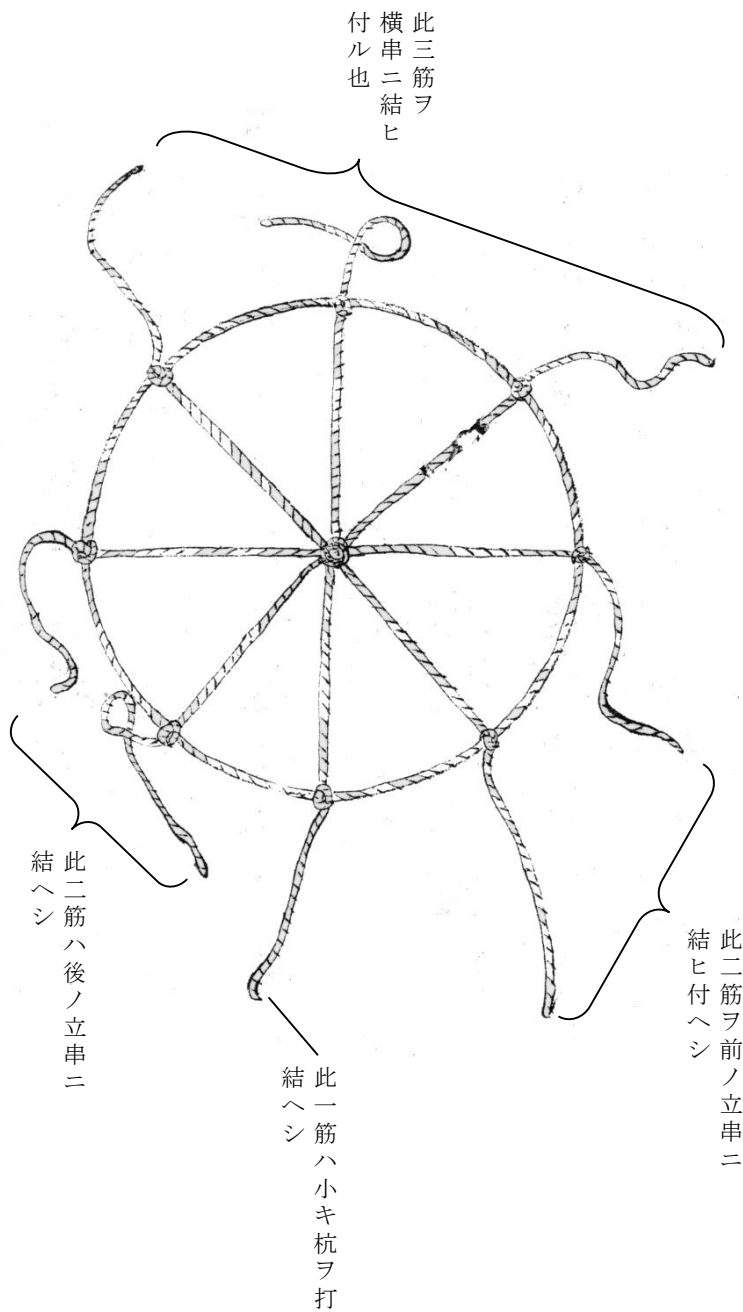
*₁

*
「こぶん」オシロイの事

06/05/20.

ニテトキ白クナル程ニ厚ク塗り三分一ノ繪ヲ
出スヘシ古代ノ大的ニハ的綱ハ別ニアリ的綱
ノ事下ニ出ス又今當ノ大的ト云モノ、制ハ細
キ苧繩經五尺二寸ノ輪ニシテ此輪ニ同苧繩ニ
テ立横筋違ト二重二十文字ヲ渡シタル所ナト
ヘハ蜘蛛ノ巢ノ如ニシテ此ヲ的心トシアツキ
紙ヲ裏表ニテ五枚ハカリ張り胡粉ヲ又リ三分
一ノ繪ヲ出シ十文字ニ渡シタル繩ノ端ヲ長ク
殘シ此繩ノ端ヲ横串立串ニ結ヒ付的ヲ掛ル様
ニシタル制ニテ古代ノ大的ノ制ヨリハ大二畧

制ナリ十文字ニ繩ヲ渡タル圖左ノ如シ



如此筆ノ軸ヨリ細キ苧繩ニテ作り此上ヲ
 紙ニテ表三枚裏二枚以上五枚斗ハルヘシ但シ紙
 数定リナシ〇〇〇ルヘシ紙ヲハリタル所ニテ此十文
 字繩ハ不見

一的ノ繪ノ事續日本紀ニハ内院コマナ中院二ノ

外院黒トアリ又鬮的聞書ニ大的の繪の事中

のくろをはこまなこの黒と申也其上をは二の

黒と申へし端のをは山形のくろと申也一の黒

三の黒なと、は申さぬ物也二の黒とは中の黒

を申也ト見へタリ此等ハ其宜キニ順テ可ナリ

猶委クハ温故之卷ニ述タレハ互見スヘシ又此

繪ノ出様習ヒアリ大的式貞丈先生ノ著述也ノ首書ニ的

ノ繪出シ様秘傳アリ紙ヲ細ク裁テ的ノ面ノ寸

ヲ取テソレヲ二ツニ折テ折目ヨリ切捨テ其一

方ヲ三ニ折テコマナコノ白ノ寸トス白半分ノ寸也其

コマナコノ白ノ寸ヲ三ニ折テ一ノ黒ノフトミ

ノ寸トス一ノ黒ノ端ヨリ外ノ端マテ寸ヲトリ

三ニ折テ其一ヲ二ノ白ノ寸トス其二ノ白ノ寸

ヲ三ニ折テ二ノ黒ノフトサノ寸トス二ノ黒ノ

端ヨリ外ノ端マテノ寸ヲ取三ニ折テ其一ヲ三

ノ黒ノフトミノ寸トス三ノ白ノ寸ハヲノツカ

ラアラハル、也小的ノ繪モ此ワリ合ニ同シ此

秘傳ニテ恰好宜シキ也ト見ヘタリ此割合ヲ以

テ今當ノ大的ニテ試タルニ少シ白ミ勝ニハ見

ユレトモ大概恰好セリ又小的ノ繪モ此ワリ合
ニ同シトアリ小的ノ繪モ是レニテ濟ヘキナレ
氏高忠聞書別記ニ小的ノ繪ノ出シヤウ見ヘタ
リ小的ノ条ニ記ス往^往テ見ヘシ

一的串ノ事檜ノ木ヲ丸ク削リ白木ニテ鳥居ノ形
ノ如ク作ヘシ其寸法ハ法量物ニ横串七尺六寸
内ノリ六尺八寸立串土より上六尺六寸串のふ
とさ口二寸トアリ考ヘシ又此串ノ立ヤウ法量
物異本ニ豎串のすそをひろくるやう横串を土
に置いて其横串の長にひろくる也見能分歟備前

守方は上下すくに立る也ト見ヘタリ此書ハ小
笠原備前守持長ノ所記ニテ他流ニハスソヲ廣
ケテ見分能ク立タレトモ小笠原流ニハ上下ヲ
真直ニ立ルト云ウ事ナリ定法アルヘカラス心
任セニ立ヘシ

一 的綱ノ事法量物異本ニ的のつり繩の事豎綱横
綱以上三筋也組十九を云布にて青黒白三色に
して幕の手綱の如くする也又白黒二色にても
する也ト見ヘタリ此豎綱横綱以上三筋トアル
ハ誤ナリ豎綱ハ横串ノ真中ニ二卷マキテ結付

長キ方ノ綱ノ端ヲ下ケ置又横綱ヲ前ノ豎串土
ヨリ一尺計上ニ豎綱ノ如ク二卷マキテカラミ
付其綱ヲ後ノ豎串迄ツ、ケ通シ前串ニ結付タ
ル如ク結ヒ横串ニ下リタル豎綱ヲ此横綱ノ真
中ニ掛テ男結ニ結タルモノナレハ豎綱ノ長サ
ハ四尺五六寸斗横綱ノ長サハ豎綱二分九尺斗
ニテ短キ綱ト長キ綱ト以上二筋ナリ是ヲ三筋
ト記シタルハ全ク誤ナル事ヲ察ヘシ又太サハ
大指ノ廻リ位二三ヨリニナヒテ用ヘシ

一 蟬ノ事此物ハ大的ノ面上左右三方ニ當蟬ニ付

タル緒ヲ的ノ裏ニ引通シ此蟬ヲ當ル以前ニ的ノ裏ニ的綱ヲ付テ置

ナリ三方ノ的綱ニしか睨ト結ヒ留ルナリ則鬮的聞書

ニ本式的かくるは串に先横に繩をはりて扱下

二方のセミより通したる繩を横繩にむすひ付

也上の繩はセミより通したる繩を横串にゆひ

付てかけ候也如斯本式也トアリ古代的ヲ掛ル

ハ蟬ノ緒ヲ以テ的綱ヲ留テ掛タルモノナリ此

蟬ト云モノ、制ハ鬮的聞書ニ大的のセミの長サ

は式寸五分かしらは五分は白く的地の色た

るへし尾の方式寸をは黒クすへし黒方キは二のく

ろこまなにの方へむくへしトアリ又弓馬三冊
ニモ圖ヲ躰シテ大的蟬此分也白キ所こふんを
ぬるきりこみは縄をからくる緒を付る所也此
筋の分角をたて、檜の木にけつる也くろみは
黒にぬりをきて後にけつるなり



右ノ如ク記シテ此圖ヲ挙タリ貞丈先生ノ大的
式ニモ蟬ノ圖出タレハ爰ニ模写ス合見スヘシ

頭の方は
黒くせず
こふんを
ぬるなり



本此細き白筋は下地を一面に黒く
ぬり後にしのきを立たる前お小刀にて
削りて白くする也細く白く筋削るなり

右ニ圖スル所ハ大的式ニ出タリ前ノ圖トハ大

ニ異リタル様ニ見ヘタレ托弓馬三冊ノ圖ハ粗

畧ナリ此圖ハ懇ニ精ク認メタレハ圖ニテ異制

ノヤウニ見ユレトモ其制ハ同シ更ナリ又頭ヲ

黒クシテ尾ヲ白クシタルモアリシニヤ鬮的聞

書ニ頭を黒くして尾の方白くする事も有是は

いはれぬ事也如斯すましき事也トアリ頭ヲ黒

ク尾ヲ白クシタル制モアリタレハコソ斯ハ記
シタレ又是蟬ト云フハ蟬ト云フ虫ノ形ニ能ク
似タレハ斯ハ呼ヒケン

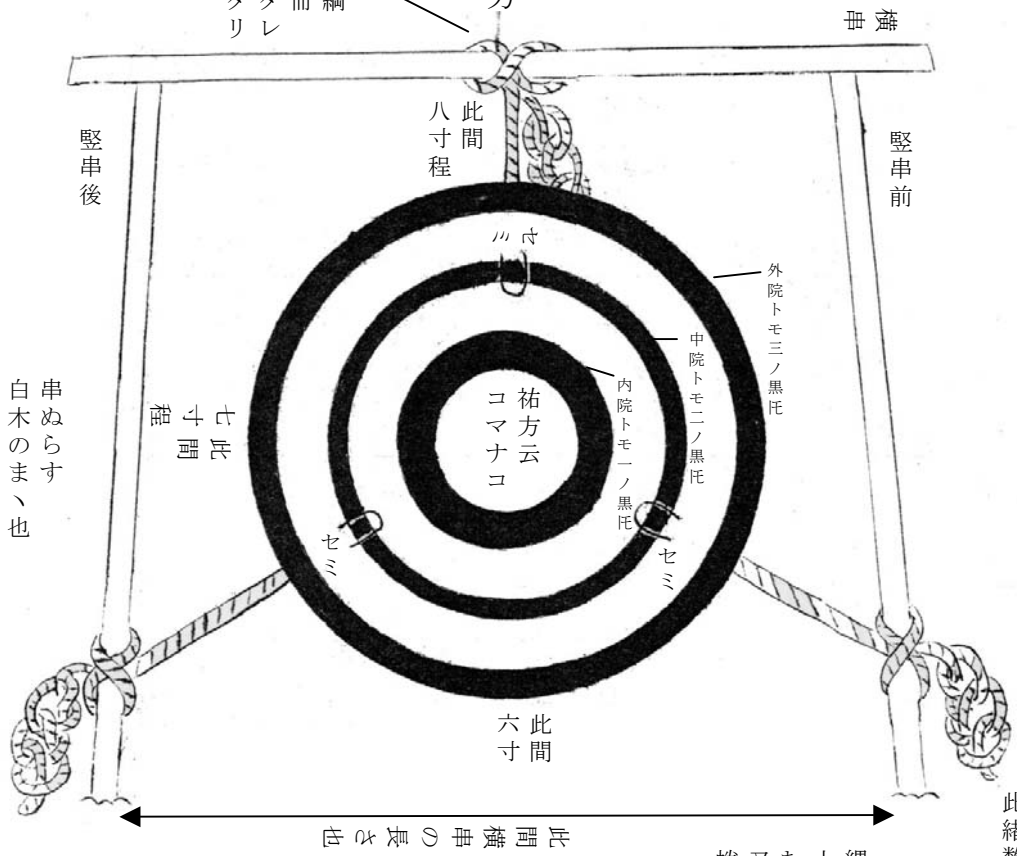
一的懸様ノ事法量物異本ニ的懸る役人は侍三人
ゑぼしかけをして後の串前の串横串を置いて扱
的をは的の表にいたきおこして下六寸にし
め上て繩を納るなり鬮的聞書ニ大的をは先か
くるとき本式は前後の串に横に繩をはりて丈
に的の繩をゆひ付候也 祐方云的綱トハ
蟬ノ緒ノ亘カ 上の繩
をは横串にゆひ候也是本式の事也ト見ヘタリ

此二書ノ説ハ小笠原家ニテ的ヲ懸ヘキ式法ナ
リ其時其場ノ時宜ニ順テ一人ニシテ掛ル事モ
アルヘシ又ハ二人シテ掛ル事モアリナン兎角
差支ナキヲ可トスヘシ但シ弓馬三冊ニ大的ヲ
掛タル圖アレト是モ粗畧ナレハ大的式ニ出タ
ル圖ヲ左ニ模写ス熟見アルヘシ

的の圖

おもての方

祐方云此三方ノ的網
ニ繩目ナシ弓馬三冊
ノ圖ニハ繩目アリタレ
ハ朱ヲ繩目ヲカキタリ
大的式圖ト並見テ
ウタカフヘカラス



此緒数幾ツト不定
三方共ニ同シ

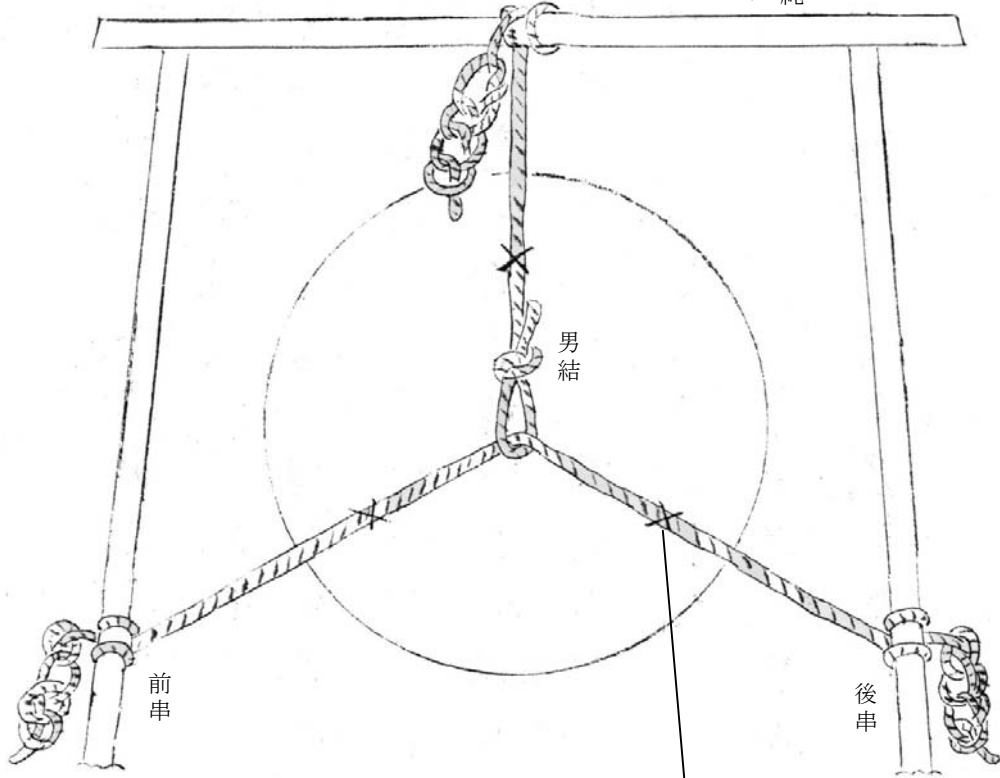
繩ヲ串ニ二かうもまとひて
十文字にかけかもくだしにして
むすひ余り長くはわなをにて
又わなをそのわなく入くして
蟻むすひにして置也

串ぬらす
白木のまゝ也

同

うらの方

祐方云此圖ニモ繩
目ナシヨリテ朱ニ
テ如此ニ書タリ



せみの緒うらへ引通し
如此的繩にからみ結苗

半的

流傳曰半的ト云モノハ大的ノ五尺二寸ノ半分
ニテ經二尺六寸ナリ其製モ大的ノ巡リノ小キ
マテニテ異ヘカラス鬮的聞書ニ半的寸法の事
二尺六寸繪の出し様は大的のごとしセミの長
は的に随て少ちひさく有へし大的の半分也弓
馬三冊に半的の事略義也二尺六寸の かも
定其謂は
大的のせい五尺二寸也其半分也繪の出し様も
大的の半分づゝに可出是を口傳の的と云但略
儀の物なる間繪をも程に見はからひて繪をも

可出セミは大的のより少ちひさくしてつけ根
なとも大的の如く可付串は大的の串に懸へし
ト見へタリ是ヲ口傳ノ的ト云ハ本式ノ的ニア
ラス畧式ノ的トナリト云々ヲ小笠原家ノ流風
ニテ奥ク个間敷口傳ノ的ト記シタレト外ニ秘
事口傳ナシ迷フヘカラス

一 繪ノ出様ノ事大的ノ繪ノ出ヤウノ割合ヲ以テ
繪ヲ出スヘシ

一 的串的網ハ大的ノ的串的網ヲ用ヘシ蟬ハ大的
ノ蟬ヨリ少シ細ク別ニ作りテ用ヘシ

半的ヲ射ル遠サハ大的ノ如シ古代ハ三十三杖
ニ打テ三十二杖ニ的ヲ立タリ今當ハ二十五杖
或ハ二十三杖也其場ノ廣狹ニヨリテ不定時宜
ニ任スヘシ

小的

流傳曰小的ト云モノハ鎌倉時代ニハ無也ニヤ
東鑑ニ不見足利家代小笠原ノ古書類ニ見ヘタ
レハ足利將軍ノ頃ヨリ射始タルモノナルヘシ
其寸法ハ徑一尺二寸ヲカミリトシテ夫ヨリ以
下一尺八寸。六寸。五寸。四寸。三寸。二寸。ナト定マラ

ス个輪ハ檜ノ木ヲ厚サ一分位ニ批キ長サ幅ハ的ノ大小

ニヨリテ不定尺二寸ノ的ナレハ丸ク曲物ノ如

大概長三尺六七寸斗幅三寸斗リ

クシテ合セ目ヲ梓ノ皮ニテ緘ぬひめシアツキ紙ニテ

張リ胡粉ヲ塗リ胡粉ヌリ様大的ノ如シ繪ヲ出シ的カワノ

巡リニ檜垣ヲ書クナリ則鬮的聞書ニ小的のは

り様の事二重三重斗張たるか當り音能也的か

わに檜垣を書は組たる故に如此繪を書也トア

リ又法量之卷ニハ的張やう厚紙キにて五六へん

も張かよくほして胡粉をぬりて繪を可出なり

ト見ヘタリ古代ノ小的ノ制モ今當ノ小的ノ制

ニ異ナラサルヲ知ヘシ但シ鬮的聞書ニハ二重
三重斗張ルトアリ法量之卷ニハ五六ヘンモ張
トアリテ紙数ニ差アレトモ鎖細ノ事ナレハ評
註スルニ不及又鬮的聞書ニ的をくむとは申ま
しき事也的を入るなと、申也トアリ此的ヲ組
ト云ハ一尺二寸ノ的一尺ノ的八寸ノ的六寸ノ
的五寸ノ的ツ五ヲ入籠イレニシテ組ミタルヲ云ナリ
的一箱ト云ハ此五組ツタルヲ云也則法量之卷ニ
的一箱組入ハ五ツ也壹尺貳寸壹尺八寸六寸五
寸也ト見ヘタリ

一繪ノ出シ様ノ事高忠聞書別記ニ小的の繪の事
的の面の寸をとりて三に折て三の一を小まな
この白みにして又こまなこの端よりかわ迄の
寸を取て三に折て一をは一の黒とし一の黒の
端よりかわ迄の寸を取て三に折て一を三の黒
にし三の黒と一のくろとの間寸をとりて三に
折て二の黒になるへし二は白二になるへしト
見ヘタリ如此寸ヲトリテ一尺二寸ノ的ニ繪ヲ
出シテ試ルニ黒ミ勝テ曇リタル暗キ日ナトハ
黒ク見ヘテ見悪シ此等ノ日ニハ大的式ニ見ヘ

タル繪ノ出シヤウ可ナリ 大的ノ条ニ出ス合見ヘシ 又法量

之卷ニ繪の出やう何も三分一の金つもり也と

心得とも雪庭又はわたましなどの的は聊いささか黒か

ちに可出之是故實也五寸以下の的は黑白四輪

たるへし一寸二寸計の小的ならば鵠の黒計然

るへしト見ヘタリ此黑白ノ四輪ノ繪ノ出ヤウ

詳ナラス竹林流ノ弓書ニ一尺二寸ノ小的ノ圖

ニコマナコヲ黒クヌリ朱以テ系ヲ引キ一寸ト

アリ其次ノ一ノ白モ一寸ト記シ又二ノ黒ハ一

寸五歩端ノ白ハ二寸五歩トアリ是レ白黒ノ四

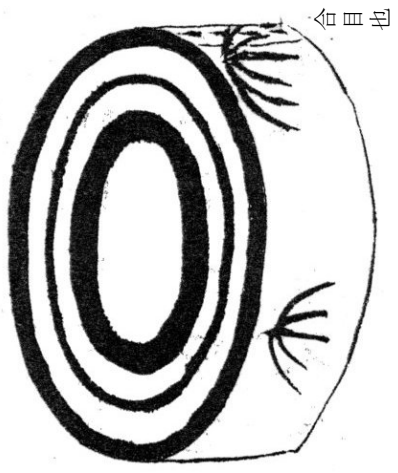
輪ニ出シタル繪ナレト三分一ノ割ヲ以テ出シ
タル繪ニハアラス三分一ノ割合ニテ白黒ノ四
輪ノ繪ノ出シ様ヲ考ルニ的ノ面ノ指渡ノ寸ヲ
取り三折リ一分ヲ小マナコノ白トス一尺二寸
ノ的ナレ
ハ曲尺三寸トナル 鵠ノ端ヨリ个輪ノ寸ヲ取り三折リ一
分ヲ一ノ黒ノ太トス一寸トナル 又一ノ黒ノ端ヨリ
个輪迄ノ寸ヲトリ三折リ一分ヲ外ノ黒ノ太トサ
ス六分六厚六
六トナル 二ノ白ハヲノツカラ頭ルナリ是
ニテ大概恰好宜ク見ユルナリ又鵠計黒クセル
ハ的ノ面ノ寸ヲ取り三折リ一分ヲ鵠ノ黒トス

今當稽古修行射ノ時ハ此鵠ノ黒ハカリ一尺二寸ノ的ニモ繪書テ用ヘタリ

一的ノ个輪ニシメヲ書事个輪ノ巡リニ物ノ形ヲ繪書ヲシメヲ書ト云ヘタリ貞丈先生云大的ハヒノ木ノ薄板ヲホソクワリテヒカキノ如ク組テ紙ニテ張也此大的ヲ象^{かたちど}リテ小的ノカワニヒカキヲ書ト云ナリト註セラレタリ前ニモ如述大的ハ小的ニ對スルノ名呼ニテ小的出来テヨリ後世ノ名稱ナレ氏大的ノ制ハ小的ヨリ以前ニアリタレハ大的ノ遺製ニテ小的ノ个輪ニヒ

カキヲ組タル形ヲカキタルニテ元來ハ實用アリテ書タルニハアラス是ヲ後世ニ及テ其本ヲ取失ヒ妄説ヲ附會シテ種々無量ノ物象繪書タリ則岡本記ニ小的のかわには必法をかく他流にはから草などをかく又ひしなどを書く當流には唯ひかきをかく又はみとり松をかかくあれも的の大小によりて三所五所の儀あるへし条し口傳これありト見ヘタリ足利時代小的ト云モノ出来テ星霜ヲ經ル事遠カラサル時スラ基本ヲ取失ヒ唐草ヒシミトリ松ナトノ形

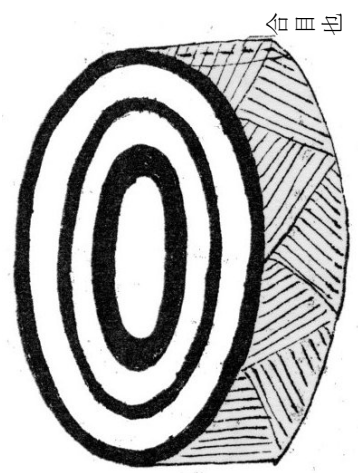
ヲ繪書タル亼ヲ知ヘシ猶近世ニ至テハ射術者
流ノ秘事大傳トノ如クニナリタリ既ニ竹林流
ノ奥傳ノ書ニ天長地福ノ四字七五三ノ松葉四
季ノ草花四季ニ從テ色ヲカヘ春ハ青ク繪カキ
夏ハ赤ク秋ハ白ク或ハ黄冬ハ黒クナト綵シテ
書ク亼見タリ小兒ノ翫フ草竹紙ニヒトシキ亼
ヲ顯シタル傳書ヲ愚昧ノ門人ニ授ケ迷シムル
師範者モ世ニハ少カラスト知ヘシ使見ノタメ
左ニ一二品ノ圖ヲ出ス



◁ 四三

此方ニ
↑
如此カク也

松葉是モ七ツ五ツ三ツ書也又

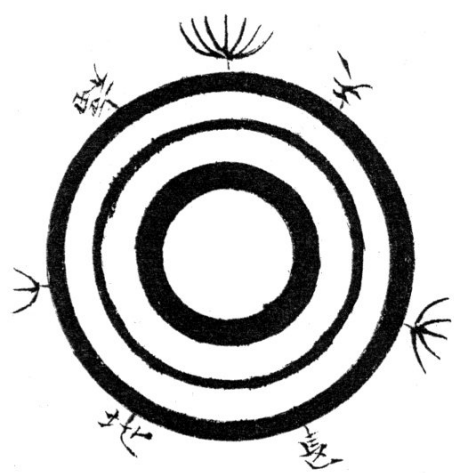


◁ 四三

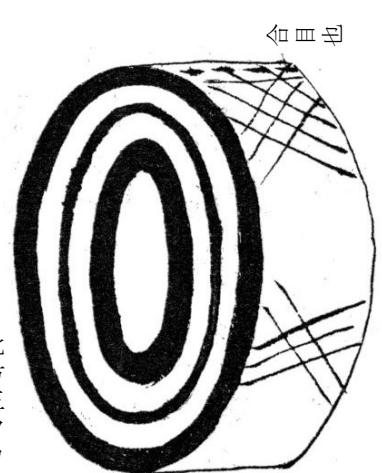
ヒカキ如此巡リニカク也

ナリ是ヲミトリ松ナト
ト云ナリ
如此モカク

是ヲ五葉
ニカキタルモ
アリ



是ヲ七ツニカキタルモアリ



◁ 四三

此方三ツカク也

シメ如此上ニ七ツ前ノ方五ツ後ノ方三ツ七五三
カキテシメト云凡
ヒカキノ畧也

一的ノ裏ニ鬼ト云字ヲ書ク事射法一統二的ノ裏
ニ鬼如此ヲニト云字ヲ書ハ誤タル事也鬼如此
書タル字也甲乙ムトイフ心ニテ書ナリ秘傳也
ト見ヘタリ又今當俗説二的ノ裏ニ鬼ト云字ヲ
逆ニ書テ掛ケ置ハ射者妙利ヲ失ヒテ不中ナト
云ヘリ此等ハ皆巫覡浮屠氏ノ妄説ヲ附會シタ
ル事ニテ揚テ論スルニ足ラス古代ニモ此妄説
アリシニヤ鬪的聞書ニ小的の裏に鬼と云文字
はかくましき也書たるもくるしからず候ト見
ヘタリ小笠原家ニテハ用ヘサル事ナレトモ此

*ム…ござるわたくし
(カタカナのムではない)

06/05/20

妄説昔ヨリアリシ亓ヲ知ヘシ

一的串ノ事法量之卷ニ檜にて作長さ一尺二寸計
的をはさむ分如圖すへし丸く削也又竹にても
作也ト見ヘタリ竹ニテ作ハ畧制ナリ竹ハ篠ノ
竹ノ矢ノ篋ノ太サホトナルヲ的ヲハサム所ヲ
割リカケ其キハヲ藤ニテモ紙ヨリニテモ卷キ
小塚ニ指込ニ易キ様二本ヲノギニ削ルヘシ

法量之卷小的串ノ圖

是ハ的串作様也



爰を藤にてまくへし

一 的立様ノ事鬪的聞書ニ小的を串にはさむ所は
かわのまけたるとぢめの上を串にはさむへし
串の方上に成様に立る也又同書に三的の立様
ちいさきは一の上中の的は前の下大成は後の
方に可立候串一ツゝにてはさみて立候事本也
串にてはさむには的の合めをはさむ也串の方
上に成様に可立候三の的をしかとよせてあひ
のすきなき様に立候へし串の先をそくへしわ
りたる半分をそく也そく方はかわの外の方に
て有へしわりたるきはを的をはさみてしかと

紙よりにて結候へし唯の小的の時も同前也ト
見へタリ的小の輪ノ合目ノトシタル所ヲ串ノ
ワリ目ニテハサミ串ヲ上ニシテ土ヨリ上六寸
ニ小塚ニ串ヲ指込ミ的ノ働サルヤウニシカト立
ケシ又法量之卷ニハ的立やう朱しるし有其所
を三方はさみてたてへし是より小なる的是或は
一方或は二方其的にしたかつてはさむへしト
記シテ小的ノ圖ヲ出シ的小の輪ノ上前後三ヶ所
ニ朱ヲ以テ丸印ヲ付的小の下六寸ニ立へしトアリ
武田家ニテハ尺二寸ノ的ハ三方串ニハサミテ

立ルナリ是レ小笠原ノ立様トハ異タリサレト
土ヨリ上六寸ニ立ル事ハ鬮的聞書ニ地より上
は六寸に可立候時によりて三四寸斗にもひき
く立て射る事も有へし小的事に年月記者詳ナ
ラス小笠原ノ
古書的のたてやう土上六寸に立るト二書二見
ナリ
ヘタレハ地卜的トノ間ヲ六寸明テ立ル事ハ同
義ナリ如此的ノ立様ニ式法アリテ甚タと露シキ
事ナリ今當モ中リニカ、ワリタル名聞虚躰ノ
射術者ハ弱弓ヲ以テ心眼ニ儲所ヲシ的ノ立所
ヲ定メ的ノ上り下り前後ノ寄退ヲ吟味セル族

露：「はやくち」の意
上文では「話が早い」意か

06/06/06

モ少カラスト雖元來的射ルハ真ノ勝負楷梯ノ
修行ニテ踏芝ニ臨ミ的ヲ見渡シ鵠ノ只中ト志
ハ敵ニ立向ヒ其射ルヘキ矢壺ヲ決定セルニヒ
トシ敵ノ矢壺ハ内甲金具周胸板弓手蝶ちようつがい番其外
透間々々ニアリ後三年記ニ相模國ノ住人鎌倉
ノ權五郎景正ト云者アリ中 畧 征矢ニテ右ノ目ヲ
射サセツ首ヲ射ツラヌキテ甲ノ鉢付ノ板ニ射
付ラレヌ参考保元物記ニヒヤウト射ル真先ニ
進タル伊藤六カ胸板カケス射徹シ餘ル矢力伊
藤五カ射向ノ袖ニ裏返テソ立タリケル爲朝ト

山田小三郎勝負ノ条二本ヨリ引儲タル箭ナレ
ハ弦音高ク切テ発ツ御曹司ノ弓手ノ草摺縫様
ニシタ、カニソ徹リケル同篇印本ニ爲朝能引
テ兵卜射ル山田小三郎力鞍ノ前輪ヨリ鎧ノ草
摺ヲ尻輪カケテ矢サキ三寸餘ソ射通シタル又
印本ニ爲朝力手本ハ覽ユル物ヲトテ例ノ大矢
ヲ打番へ固テ兵卜射ル思フ矢坪ヲ誤ラス下野
守ノ兜ノ星ヲ射削リテト云云此外上野国住人
深巢七郎清国力兜ノ三板ヨリ左ノ小耳ノ根ニ
射付悪七別當力鎧ノクツケイ大庭平太景義力

左ノ膝節ヲ射ラレタル事跡アリ又同書ニ首藤
九郎ハ海老名源八カ弓手ノ臍當ノ餘リヲ射ル
根津神平ハ紀平次大夫カ鎧ノ引合ヲ筈深ニ射
ル参考平治物語ニ鎌田兵衛ハ重盛ノ射向ノ袖
ヲ一ノ矢ニ射ヒ二ノ矢ニ押付三ノ矢ニ馬ヲ射
ル源平盛衰記ニ監物太郎頼賢ハ旗差頸ノ骨ヲ
射ル源八兵衛尉廣綱ハ内甲ヲ鉢付ノ板ニ射付
ラレ和田小太郎義盛ハ金子十郎家忠カ腹卷ノ
一ノ板曾ノ鉢カケテ射貫佐藤忠信ハ菊王丸カ
腹卷ノ引合ヲ射ル太平記ニ足助次郎ハ若尾弥

五郎カ甲ノ真向金物ノ上二寸斗ミケンヲ射ク
タキ関将監ハ空洞ヲクサメ通シニ射ヌカレ悪
五郎ハ脇立ノ坪ノ板沓卷攻テ射込タリ荒尾九
郎ハ鎧ノ千且ノ板ヨリ右ノ小脇マテ篋深ニ射
ラレタリ兼久記ニ伊賀判官ハ原田右馬允カ頸
骨ヲ射切ル宇都宮四郎ハ赤糸威ノ鎧着タル武
者ノ頸骨ヲ射ルニノ矢ニ黒革威ノ鎧着タル法
師武者ノ引合篋深ニ射ルナトアリ此外古軍史
古物語等ニ所見少カラスト云托掲之二違アラ
ス右ニ見タル如ク敵ヲ射ルハ其矢壺更ニ定マ

ラス今當ノ如夕的ノ立所ヲ何モ分厘差サルヤ
イッ
ウニ立テ百發百中ヲ自得シタリ托的ノ立所替
レハ外レ勝ナルヤウナ上手ニテ物ノ用ニハ立
ヘカラス故ニ當流一貫ニテハ態卜的ノ立所ヲ
違ヘ或ハ上テ立テ又ハ下テ立テ前ニ進メ後ニ
退ケナト種々の在所ヲ替への中ノ所ヲ自得
サセルハ真ノ勝負ニ矢壺同シカラサルカ故ナ
リ此所ニ知己大事ト云大傳アリ又的ヲ白ムル
ト云事アリ弓馬故實ニ的しろむると云事暮に
成たる時うらを表へなして射るを云也ねこは

らに成候時的をしろむすと云也鬮的聞書に鬮
的の時日暮て人顔の見えぬ程にもなる時分的
をしろむる事有丈は射手としてのしろめに有
時的の串をぬきの裏を表へなしてはさみて
立へし候是を的しろむると申也左様にして二
三度射へし猶々口傳に在へしト見へタリ此的
ヲ白ムルハ日ハ西山ニ入り黄昏ニ及テ射手ハ
殘りのハ分明ニ不見無抛的ノ裏ヲ返シテ立レ
ハ皆白ニナリテ見能キナリ是レ不得止事時爲
ス事ト知ヘシ

一 小的ニ中リ外ノ事射御持長記ニ小的のあたり
はつれの事的かわより矢さき内へ入はあたり
也紙にあたりぬれとも矢さき外へ出ははつれ
也又かわのとちめへ入たるもはづれ成へし鬮
的聞書に小的にかわの合目のあいへ矢の入事
有かわのまけめへ矢入たるはいたつきの先か
わの内へ入たらはあたり也まけめのあいへす
くに入たらばはつれ也是秘説也又いたつきの
先外へ出は猶はつれなりト見へタリ二書ノ説
其意味同シ又ウチ矢ト云フ事アリ鬮的聞書ニ

小的にうち矢と申事はかわの両方のわけめの中へ射込たるをうち矢と申也丈ははつれ也今など人のうち矢と申事はかわの廻りにあたるをうち矢と申也是はいはれぬ事也本式打矢とはわけめの中へ入たるを申也ト見へタリワケメノ中へ入タルヲウチ矢ト云ハ誤ナリウチ矢ハ打矢ト書テ横矢ニナリテ的ノ面ニテモ个輪ニテモ打タル矢ヲ云フニテハツレナリ又鬪的聞書ニ小的の時中に當りてふとぬくる事有それは當るともぬけははつれ也ト見へタリ小塚

ノ砂ニ風ト交リテ石アル時ハ的ニ中タル矢其
石ニ中リテ飛返ル事マヽアリ是レハ勿論外レ
ナルヘシ又射御持長記ニ小的にあたるといへ
とも小あつちに矢ふかく入り筈見えすははつ
れるへし的の面をさすりて見るに矢筈手にあ
たりぬきは中りなるへし秘事也ト見エタリ何
程強弓ニモセヨ的ノ面ニ矢筈ノ見ヘサル程筈
深ニ小塚ニ入ルモノニアラス鬪的聞書ニハつ
くらにかきりての事也トアレハ小塚ト云ハ津
久羅ノ事力既ニ弓馬三冊ニ塚といふはつくら

の事也是塚の本也トアリ可考津久羅ノ小口ニ
的ヲ立タルナレハ強弓ノ精射ハ時トシテハ矢
筈ノカクル、程篋深ニ射ル事モアルヘシ篋深
ニ射テ的ノ面ニ筈ノ見ヘサル時ハ外レトスル
事持長ノ説右ニ見ヘタリ持長ハ小笠原家世代
ノ内ニテモ格別ノ人ナレハ本證トスヘキ事ナ
レトモ此説心得カタシ篋深ニ射ルハ修行ノ積
功ニテ發ル矢ニ逞勢アルカ故ナリ是ヲ外トセ
ルハ持長ノ説ナレト用ユヘカラス

陰陽的

流傳曰陰陽ノ的ト云モノ古ク不見當射法一統
ニ夫陰陽ノ的ハ色ニ依テ定ルト見タルハ惡シ
只虛實ト心ヲ付レハスム也ト記シ尻ヘニ的ノ
面ヲ端ノ巡ヲ白ク鵠ヲ黒ク繪ヲ出シ陽的ト記
シ又端ヲ黒ク鵠ヲ白ク繪ヲ出シ院的ト記シ二
品ノ圖ヲ顯シタリ陽ハ昼ニテ白キ色ヲ表示ス
ル歟又院ハ夜ニテ黒キ色ヲ表示シテ此二品ノ
的ヲ偽作シテ陰陽ノ的ト号タリ何モ別ニ故實
ナト云フ事ハアルヘカラス今當何流彼流ト流
名ヲ置タル射術ノ傳書ト云モノヲ見ルニ真言

ト云佛法ノ説ニ拠リテ著タル書少カラサレハ
此陰陽ノ的ト云モノモ巫覡浮屠ノ妄説ニ闇サ
レ好事ノ弓家者流故實者流ナト云族巧ミ出シ
テ愚ナル門人ヲ欺シメタルモノト知ヘシ

月並的

流傳曰此月並ノ的ト云モノモ勿論近世ノ偽物
ナリ射法一統二年内十二个月ニ圖ヲ配分シテ
正月ノ的ハ霞二月ノ的ハ雁三月ノ的ハ櫻四月
ノ的ハ青葉五月ノ的ハ早苗六月ノ的ハ御祓七
月ノ的ハ蓮八月ノ的ハ紅葉九月ノ的ハ菊十月

ノ的ハ時雨十一月ノ的ハ雪十二月ノ的ハ氷ト
悉々其月々ニ相應ノ形ヲ的ノ面ニ繪書タル圖
ヲ顯シ古來遊興二月次ノ的トテ圖如此ト物知
リ兒かおニテ自滿ラシク記タリ此月次ノ的ト云モ
ノ古來遊興ニ用ヘタル本證正シクアリシニヤ
國史記錄ニハ勿論古物語古雜書ノ類ニモ不見
當古來トハ何イツレノ頃ヲ指テ云ヒタル事ニヤ本
證モ不記古來トハカリアリテ難ハ信強ウケシヘテ云ハ、
自己ノ巧ヲ以テ作り出シタルナランカ何様武
心ヲ取失ヒ治世ノ詰講ニ流レ的ヲ翫物ニスル

ハ何事ソヤ決カラス次第歎ナケカハシキ更ナリ

五色的

流傳曰五色的ト云モノ詳ナラハ武用辨畧ニ五色的ト云アリ是神的也弓書ニ五色ノ的ハ神的ナレハ是レ憚テ常ニハ三黒三白ニスルト云云又白子ノ的ト云是モ五色ノ内ノ的也ト見ヘタリ此神的ト云ハ法量之卷ニ神前小的トアル的ノ更歎其的ハ鵠ヲ黒ク次ノ輪ヲ白ク又黒ク又白ク又端ノ輪ヲ黒ク以上黒白五輪ニ繪ヲ出シ个輪ニ七五三ノシメヲ書タル的ナリ是ヲ五色

ト云ハ當ルヘカラス思フニ五色的ハ黑白青黄
赤ノ五的ナランカ則白子ノ的ヲ五色ノ内ノ的
也ト記シタリ孰レ近世ノ偽物ニテ身ヲ碎キ骨
ヲ折テ穿鑿スヘキ程ノ的ニハアラスト知ヘシ

星

流傳曰星トハ的ノ小キ云ナリ四寸以下三寸五
分。三寸。二寸五分。二寸一寸五分。一寸。八分等ノ小
キ鵠ヲ星ト云ナリ其制ハ小的ノ製ニ異ナラス
星ハ胡紛ヲヌリテ繪ヲ不出金銀ノ紙ヲ以テ張
ナリ金ニテ張リタルヲ金星ト云銀ニテ張タル

ヲ銀星ト云ナリ是ヲ星ト云ハ塚ニ立レハ光ア

リテ夜陰ノ空ニ宿星ノ顯レテ小ク光リ暉カ如

かかやく

クニ見ユレハ宿星ニ譬喩シテ斯ハ呼ケン但シ

稽古射ニ細中ヲ修行センタメニ金銀ノ紙ヲ不

張胡紛ヲヌリタルモアリ是モ星ノ畧制ト知ヘ

シ

一星立様ノ事金銀ノ星ハ光暉テ見悪キ故ニ林ト

云モノヲ作ルナリ林ハ豎二尺位横モ同シ杓ノ

葉或ハ竹葉ヲ長サ四五寸斗ニ折リ小塚ニ指シ

カサシ其真中ニ星ノ个輪ノ合目ヲ串ニハサミ

テ小的ノ如ク立ヘシ如此スルハ見能キタメナ
リ

草鹿

流傳曰草鹿ハ鹿ノ形ヲ皮ヲ以テ作り是ヲ的ニ
シテ鹿狩ノ稽古ニ射タルモノト云ヘリ鬪的聞
書ニ草鹿に是のなき事は頼朝の時富士のまき
かりをやられてから始りたる也夏山のまきに
鹿の立たるをまもてしたる也是は狩の稽古の
爲にし出したる事也草の中に立たるをまもた
る間是はなき也かやうに可心得也弓馬三冊に

草鹿の事頼朝の御代富士の牧狩の時夏野の草
深き所に在鹿を射たるか面白きとてそれより
後草鹿と名付て初てくゝらせあそはしたりさ
れは草鹿に是なき也草深き所に鹿の立たる所
也ト見へタリ草鹿ハ頼朝ノ時富士ノ牧狩ヨリ
始ルト云説ハ難信用東鑑ヲ見ルニ富士ノ牧狩
ノアリシハ建久四年ノ五月ナリ草鹿ハ富士ノ
狩ヨリ以前建久三年八月二十日ノ記ニ見へタ
レハ其始ハ詳ナラスト雖元ハ鹿狩ノ稽古ニ射
タルヲ後世ニ及テ式法ヲ儲ケ賭物ヲシテ中リ

外レヲ以テ勝負ヲ争フヤウニナリタルモノナ
ランカ則鬪的聞書ニモ狩の稽古の爲にし出し
たる事也トアリ考ヘシ其制ハ檜ノ木ノ厚サ五
六分ノ板ニテ鹿頭ヲ掲テ射手弓手ヲ指付射手
ノ前ノ方ニ向ヒタル形ヲ作り是ヲ裏板トシ表
ハ牛滑ノ白皮ニシテ中ニ毛扇鏡ニ丸物草鹿う
らは板也中へはや
はらかに鹿の
毛を入れる也又ハ綿ヲ入レ鹿ノ肉合ノ如クフ
クラカシ裏板ヲ包ミ廻リテ縫寄セトシ合セ星
ヲ白クシテ惣躰ヲ栗色ニ塗り裏ノ方脊通ニ二
所腹ノ通ニ二所裏板ノ真中ニ一所以上五所乳ヲ

附此乳ニ綱ヲ通シテ的串ニ掛ルナリ法量之卷
ニ中ニハ綿を入へし亦のこきりくつなどをも
こむ也トアリノコキニクツハ木ヲ鋸ニテ挽ハ
細カナル木クヅ出ルナリ此木クツヲ中込ニセ
ルナリ是ハ匱制ト知ヘシ

草鹿寸法ノ事法量物ニ草鹿事鹿の勢長一尺八
寸廣八寸くびの長七寸五分つらの長三寸五分
トアリ信豊ノ法量之卷ニ見ヘタル所モ是ト同
シ法量物異本ニハ首ノ長八寸五分或ハ七寸五
分トアリ又鬮的聞書ニ草鹿の長壺尺二寸と有

されとも長^サ壹尺六寸はかりにも候へし如斯善
長のおやの法量物に在也是根本の法量物なり
ト見へタリ彼レ是レ合考ルニ寸法ニ異同アレ
ハ草鹿モ心任セ作ルモノニテ大小定マラスト
見へタリ能ク知ン人ニ尋ヘシ

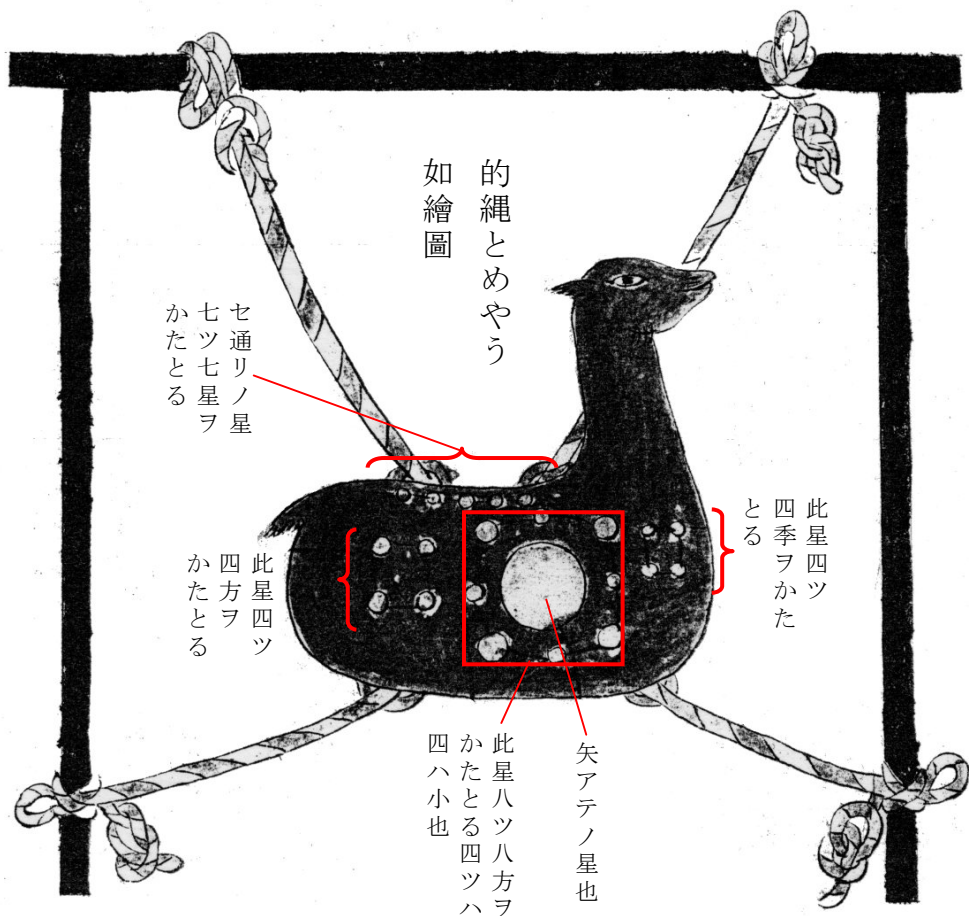
星ノ事法量物ニせとをりの星七^ツ矢あての星四

寸^{かも}の^定まはりの星八四所は大なるへし前後に

ほのく四つ、トアリ又法量物異本法量之卷ニ
見へタル所モ是ト同シ鬮的聞書ニ全中に大き
成星の有をは矢あての星と申也同事なから連

錢を射たるなんととは申ましき事也ト見ヘタ
リ連錢トハ笠懸的丸物ノ白キ輪ヲ云ナリ矢ア
テト云ハ草鹿ノ大星ヲ云ナリ
的串的綱中リ外ノ矢沙汰等ハ丸物ニ同シ丸物
ノ条合見ルヘシ但シ草鹿ノ綱ハ立綱二筋ナリ
則小的事ニ草鹿は立綱二を少間をひろけてし
かと巻てとむる也ト見ヘタリ

法量之卷草鹿ノ圖



的繩とめやう
如繪圖

セ通りノ星
七ツ七星ヲ
かたとる

此星四ツ
四方ヲ
かたとる

此星四ツ
四季ヲかた
とる

此星八ツ八方ヲ
かたとる四ツハ大
四ハ小也

矢アテノ星也

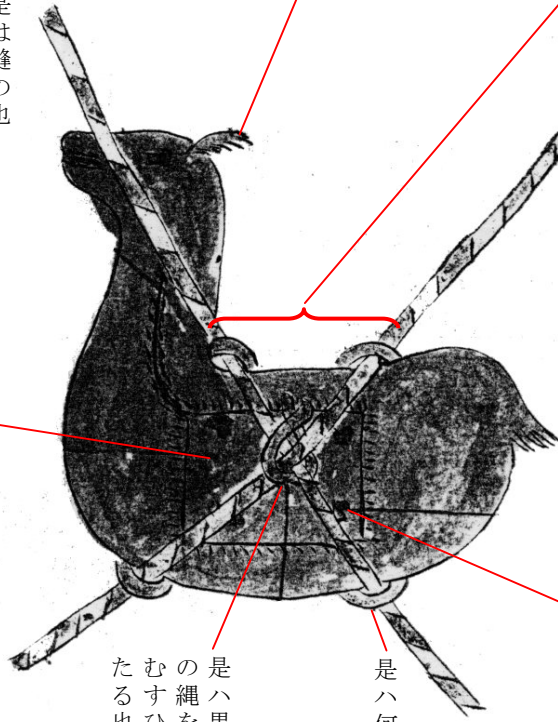
祐方云此乳ノ間
五寸ト法量物ニ
見タリ

是ハ耳也
如斯裏方
表へ引通シ
とんほうむす
ひにして甬ル也

是は的の裏也

是は縫の也

つなは二筋にて如此
からくりつくる也



是ハ皮のてりたる
しは也

是ハ何もち也

是ハ黒革にて二筋
の繩をからみて男
むすひにむすひ
たる也

是は乳を裏板に引通して
とんほう結ひとめたる也
ちは黒革に苧しんを入れてく
けてうら板方よこはらへ
引とをすへし

圓物

流傳曰丸物ハ檜ノ木ノ厚サ五六分ノ板ヲ經八

寸ニ丸クシテ是ヲ裏板トス法量物ニ丸物ノ事

うら板八寸射鏡ニ圓物の法量の事圓物勢八寸

弓馬三冊ニ丸物の事うら板八寸トアリ丸物ノ

大サ八寸ナレハ裏板ヲ此寸ニシテ祐方云法量之卷ニ圓物

之事法量八寸金定也是右大には不可有之表ハ

牛滑ノ白皮ニ中ニ毛扇鏡ニ見ユ又ハ綿ヲ入タトヘ

ハ鞠ヲ真中ヨリ二割ッタル如ノ形ニ成丈丸クフなるたけ

ツクリトフクラカシ廻リヲ小クタテタル草ニ

縫ヒ裏板ヲ包ミ廻リテ縫ヒタル小キ草ヲ引シ
メ端ト端ヲ結ヒ合セハ大概恰好ヨクナルナリ
如此作り黒ク塗り連錢ヲ白ク塗り残スヘシ法
量之卷ニ的作様は裏板を檜にてさしわたし八
寸に丸くしてさて牛皮なめし革にてなま然丸
くふつくりとくゝまへし中には綿を入れる也惣
と黒くぬりて連錢をは白くのこすへしまた染
かはなとにてもくゝまなり連錢四寸なりト見
ヘタレハ武田家ノ制モ異ラスト知ヘシ連錢ノ
事下条ニ出ス見ルヘシ又是レヲ射ルハ笠懸ノ

矢所ヲ知ラン爲ナト、云ヘリ則射鏡ニ夫圓物
は遠笠懸の風懷をつて初心の人に矢所をしら
しめんか爲也然弓矢の沙汰に於て別の子細な
し他家にはいかなる弓の沙汰ありといふとも
當家にはさのみ沙汰すへき事なしト見ヘタリ
圓物ノ起ハ笠懸ノ矢沙汰ヲ知ラセン爲ニ射セ
タルモノナレト後ニハ別ニ圓物ノ射禮ヲ設ケ
歩射ノ三物^ッ祐方云伊勢氏ノ夏草ニ大的草鹿圓
物是を歩立の三物ト云ト見ヘタリ
ナト、云ヒケルヤウニナリタレハ無稽ノ弓術
者流ハ何ソ射則ノ大傳ノ様ニ心得深ク秘シタ

レ八年經ル順テ終ニハ其故實ヲ失ヒタリ則射
法一統ニハ丸キ臺ニ的ヲ置タル圖ヲ出シ此的
六寸タルヘシ下地ヲ桐ノ切ニテ拵上ヲ皮ニテ
縫クルム間ヘハンヤヲ入ル皮マクラノ如シト
アリ武射心用ニハ騎射ニモ歩射ニモスル習ア
リト云ヘリ丸物ヲ騎射スルト云ハ妄說ナリ小
笠原ノ古書類ニ不見當又武用辨畧ニハ圓物此
形太鼓ノ如ニ作也面裏モナク同様ニ滑革ヲ以
包也廻ヲ黒ク塗真中ヲ四寸白ク明テ矢中ト云
也トアリ此等ノ說一トシテ實談ニアラス圓物

制作其射禮等ノ故實ヲ知タル人稀ナリ圓物ト
云フ名目ヲ聞傳、其名目ニ附會シテ妄説ヲ云
ヒフラシ幼學ノ者ヲ迷シメタルモノト知ヘシ
一連錢ノ事白ク輪ヲ書タルヲ丸物ハ繪ト不云連
錢ト云ナリ又矢タマリトモ云ナリ則法量物ニ
矢たまり四寸れんせんの儀也トアリ射鏡ニハ
れんせんの白み一寸斗矢たまり四寸トアレハ
連錢ト云ハ白キ輪矢タマリト云ハ真中ノ黒キ
星ヲ云ナリ法量物異本ニ矢たまり四寸れんせ
んの義也但れんせんとは白みを云黒はほしと

云ト見ヘタリ又弓馬三冊ニハ矢たまり四寸れ
んせんの事也法量物と云日記にはふすへたる
分共に白みをかけて四寸なりトアリ右等ノ書
ニ見エタル連錢ノ書様ハ定寸アレトモ寸取ニ
習ヒアリ其寸取様ハ下条武利武利ノ所ニ委ク
述タレハ合見ルヘシ

一乳ノ事乳ハ真上ニ一个所左右ニ一个所ツ、以
上三所ナリ黒キ和革ニ苧繩ヲ真ニ入レ丸クク
ケ廻ノ角ヨリ裏板ニ穴ヲ明ケ兩端ヲ引出シ堅
ク結ヒ留ルナリ乳ノ長サ射鏡ニちの長^サゆひ二

ふせト見ヘタリ

一的串ノ事大的串ノ如ク檜ノ木ヲ丸ク削リ鳥居
ノ形ニ作ヘシ射鏡ニ檜木にてすへし丸くすへ
しさて黒くぬるへし土に入る分は八角なるへ
しトアリ大的ノ串ハ白木ノマヽ草鹿丸物ノ串
ハ黒ク塗ナリ則弓法私書ニモ丸物の串は黒く
ぬるへし笠懸の串同前大的の串は白しト見へ
タリ又串ノ寸法ハ法量物ニ横串五尺内のり四
尺三寸立串土より上三尺七寸串のふとさ口一
寸四分トアリ射鏡ニ見ヘタル所モ是ト同寸ニ

テ土打入分一尺二寸斗トアリ一尺二寸ニ土ヨ
リ上ノ分三尺七寸ヲ加ヘハ立串ノ惣長サ四尺
九寸トナルヘシ又弓馬故實ニ折懸串と云事草
鹿圓物に用る事也串なき時の事也高忠聞書別
記ニ折りけ串の事丸物串なき時の事也ト見ヘ
タリ草鹿丸物ハ串損シタル時ハ竹ニテ折掛串
ト云モノ作りテ用ユル事モアルヘシ折掛串ノ
作様布皮ノ条ニ述タリ互見スヘシ

一 的綱ノ事鬮的聞書ニ丸物笠懸の的縄打ませ本
式也トアリ打マセハ黑白アサキノ三色ナリ又

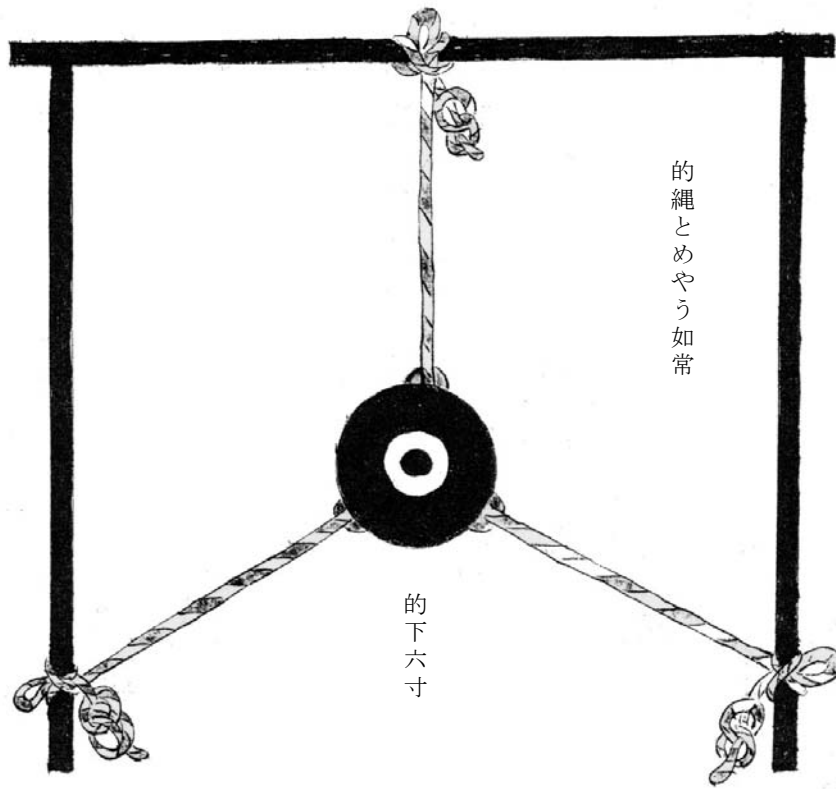
アイ白ノ二色ニモスルナリ則弓法私書ニ丸物の繩をは黒白あさき三色にて三くりにうつ也布を二色染也ト見ヘタリ草鹿丸物ノ綱モ大的綱ニ其制異ナラス丸物ノ綱ハ立綱一筋横綱一筋以上二筋也

一的ノ掛ヤウノ事小的事ニ丸物串をは前の串より立はしむる事也的は笠懸のことく懸へし串はいかにもすくに立へし串を立時は横串を地にしかと置いて立串二の間を横串の廣さ程先程の串を立定て後うしろ串を立へし先前の串に

横綱をとめて其後うしろの串にとめて扱立縄
をとめへしとめ様は何も前より引廻して其縄
に懸てうしろへ引廻して串に巻てとむる也ト
アリ串ノ立様ヲ知ヘシ綱ノ結留ヤウハ前串ヨ
リトメルトアレト射鏡ニハ圓物のかけ様の事
的桶の蓋に置て持て可出置様は的をうつふせ
て置て 祐方云弓法私書ニ丸物をかけ候時は横
串の通りにれんせんを上になしてうら
板を土に付て置へし丸物をは土の上六寸に懸
る也ト見ヘタリ射鏡ニ見ヘタルトハ天地ノ差
アリ 扱縄を的のうらにわけて置へし的をかく
可考
る時は初桶のふたをはとりて左右の手にてか

へてつなかせへし後のつなを能しつなきて
のち的をいたきおこして前の縄をつなかせて
前後の縄的をよく中に置いてよく引はりてい
たきおこして上の縄をつなし時引はりてつな
しへしかくてこそ下六寸になりて縄もはりぬ
れ上の縄は三あはせのあさのこさしなわ也紺
に染へし何ものつなし人その縄を可執かへ
る人はわけて持事也と見へタリ小的事二見へ
タル丸物ノ掛様トハ同シ小笠原ノ古書ナレト
其説異リタレハ掛様ニ定法ナキヲ察へシ左ニ

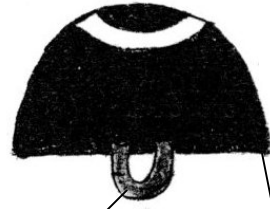
法量之卷二見へタル丸物掛タル圖ヲ模写ス



的繩とめやう如常

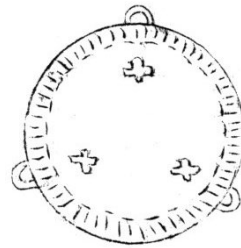
的下六寸

的の作りやう繩からくりやう笠懸同前也
但笠かけ右丸くふつくりとくたる也其外は同前也



是はまとのふくらみの
かつかう也

是はち也裏板右
横はらへ引通し
たる圖也



祐方云此裏の
圖はなしにの
私に此圖を作たり

武利武利

流傳曰武利々々ハ鎌倉時代ニハ未タ無之ニヤ
東鑑ニ不見漸ク小笠原家ノ書ニ見ヘタレハ足
利時代ヨリ射始タルモノナランカ弓馬三冊ニ
ふりく根本よりなき物也射やうふりくのこし

らへやら不定但丸物のことし也トアリ根本ヨ
リナキト云ハ昔ヨリハナキモノニテ此頃射始
タルト云亘ナリ武利々々ノ主用ハ射手ノ精粗
弓ノ強弱ヲ眼前ニ顯モノニテ的ノ正中ニ矢中
レハ的^{アカ}上成ニ飛揚リ横串ニクルくト的綱卷付
也則笠懸矢沙汰記ニふりくなどは畧義也是は
的を射て繩のまとふを勝負に射る事也精兵は
まとひ数おほし有へし是を賞翫する也別成子

細なしトアリ弓強キ精射ハ綱ノ卷数多シ 祐方云弓

強ク正中ニ中ニハ卷詰テ未タ
余力アリテ卷戻ル事モ可有 弓弱ノ者ハ中テ

モ綱ノ巻数スクナシ又弓ハ強キトモ中リ所ニ
ヨリ的ノ端ナトミ中レハクルくト舞テ横串ニ
的綱巻不付如此ナリタルハ外ナリ巻数ノ多少
ヲ以テ勝負ヲ争フモノナレハ強弓ノ精射ナラ
テハ積多シ故ニ強弓ヲ射ル修行ニハ最上トス
ヘシ前ニモ見ヘタル如クフリくノ射樣的ノ大
小ハ法量ナシト雖弓馬三冊ニ圖ヲ頭テ是ハふ
りくなりの的の寸は三四寸の間なるへし不定然
共さほど大にはなき也トアリ法量之巻ニモ
ふりくの度寸法三四寸の間なるへし是は大小

は不可有也的の作りやう圓物同前也トアリ射
手ノ中ノ精租ニ寄りテ究メカタシト雖大概五
寸ノ的ヲ以テ圖トスヘシ五寸ヨリ大ナルハ中
ハ可ト云トモ重ナリテ巡リワロシ又三四寸位
セル時ハ輕ユヘ巡リハ可ト雖中リワロシ一得
アレハ又一失アリ其程合ヲ知ヘシ此武利々々
ノ制ハ檜ノ厚サ六分位ノ板ヲ匱制ハ松的經ホト
ニ丸クシテ少シ上方ニ小キ穴ヲ並テ二明ツケノ穴
明所左ニ釣綱ヲ貫通ス料トス小笠原家ノ制ハ
圖ヲ出ス乳ヲ左右ト裏板
ノ真中ニ付テ綱ヲ此裏板ヲ紙ニテ板目ト紙目
通タレ氏積易シ

ト十文字ナル様ニ裏表共四枚斗張り其上ニ布
ヲ着セ又紙ニテ二三枚張り又布ヲ着セ其上化^ニ

粧張りテ二三枚スヘシ

如此裏板ヲ丈夫ニセサ
ル時ハ破碎ナリ又紙ヲ

厚ク張過テ重クナリ
テ不可也其程合アリ如此裏板ヲ丈夫ニシテ表

ハ牛滑ノ白皮ニテ包ヘシ中ニハ毛又ハ綿ヲ入

テフツクリト丸クスルナリ縫様丸物ト同シ此

表皮ノ寸取ニ習アリ裏板ノ經ノ寸ヲ取り夫ヲ

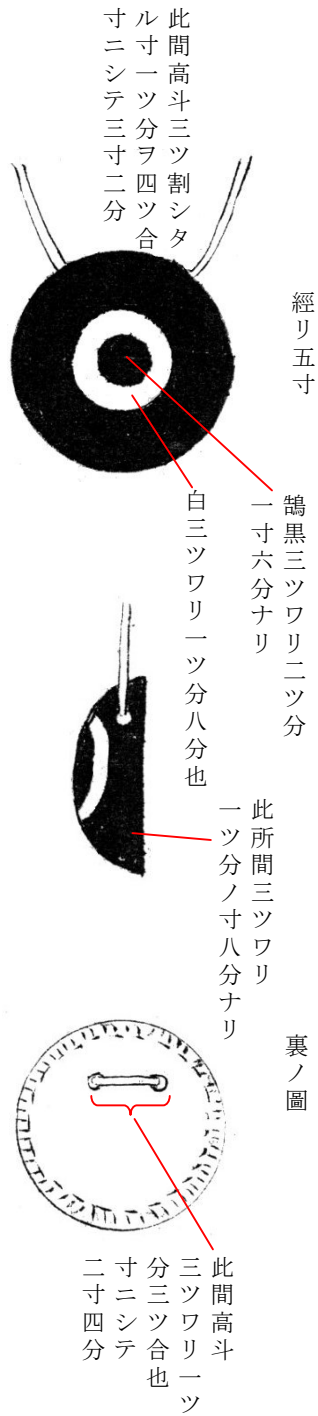
五ニ折リ一分^ッヲ七合^ッテ表裏ノ寸トス

タトヘハ
五寸ノ的

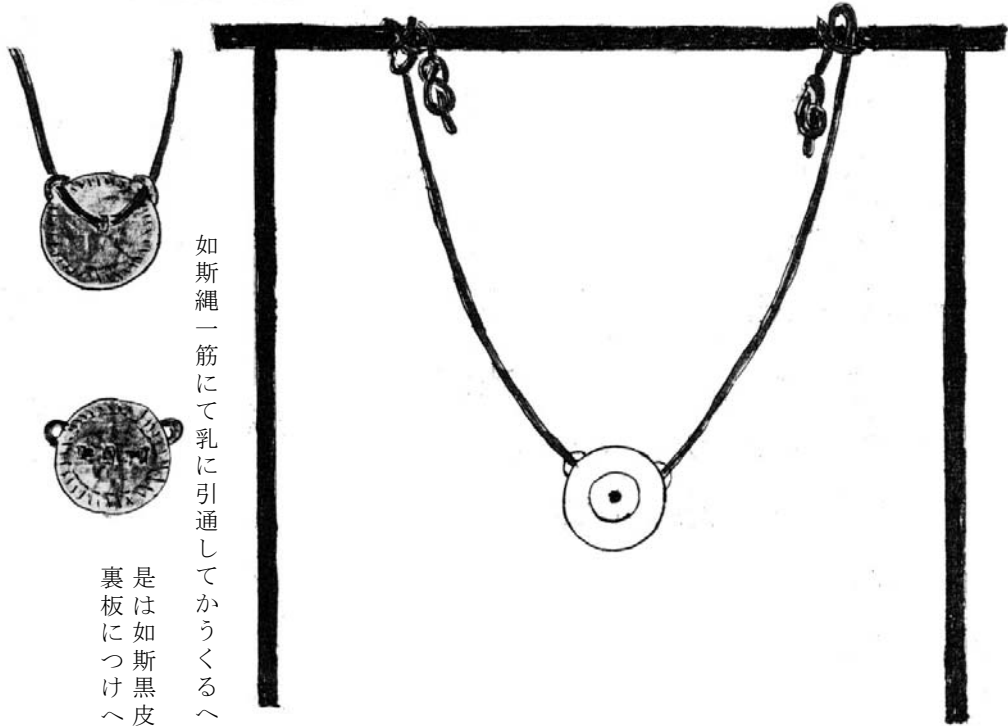
ナレハ五寸ヲ五ツ割レ
ハ一寸ト成是^ニ七加^ハ七寸此寸ニテ恰好ヨクフク

ミニナル也又一傳ニ板ニ經ノ寸ヲ取り其寸ヲ

二半^ツニ折リ一^ツ半置今一分ノ寸ヲ五寸ニ加へ七
 寸トナル如此ノ定メ様モアリ又繪ノ出様ハ的
 徑ノ寸ヲ取^リ七^寸ナリ其ヲ三^ツニ折リ一^ツ分ヲ又三^ツニ折
 其^ツ一^ツヲ^{八分}曲尺ニシテ^{八分}鵠ノ黒ノ半分ノ寸トス^的正
 當テクルト廻セハ又鵠ノ黒ミノ端ヨリ右一分^ツ
 丸ナリニ^ツ分ノ寸^中ニ
 八分^ツ白ミノ寸トス其余端ノ黒ミトスルナリ



一的串的綱ノ事法量ノ卷ニ的串的かは的綱圓物
のごとしトアリの串ハ圓物ノ串ヲ用ヘシ的綱
ハ丸物ノ的綱ニテハ太ク横串ニ卷付悪シ丸物
ノ綱ヨリハ細クスヘシ布ニテ三クリニセス苧
繩ヲ筆ノ至ホロニ柔ニヨリタルモ可ナリ試テ
知ヘシ串ニ武利武利掛タル圖高忠聞書別記弓
馬三冊ニ見ヘタレ托大粗ナレハ法量ノ卷ニ出
タル圖ヲ左ニ模写ス



如斯繩一筋にて乳に引通してかうくるへし

是は如斯黒皮をわなに
裏板につけへし

乳二つ如斯黒革にてつけへし

卷藁

流傳曰今當卷藁ト云物ヲ古代ハドユヒ共胴結

ト云アリドユヒト云名ノ見ヘタルハ法量ノ卷

ニとゆひ上菰あみめ五ふ也又は六所もあむへ

し口傳トアリ此書ハ法量物

小笠原持長ノ所記ナリ

法量物

異本

記者同上

トハ別本ナリ卷尾ニ文安三年六月二

十九日沙弥浄元トアリ其次ニ弘治二年八月日

信豊ト奥書アリ浄元ハ小笠原備前守持長ノ法

名也信豊ハ武田左馬助ノ實名也年曆ヲ考ニ浄

元ト信豊ハ凡百二十年余ノ春秋ヲ隔タレハ此

法量之卷ハ若シハ信豊ノ作ニテ浄元ノ名目ヲ
置タルモノナランカ持長ノ記ニシテハ時代ニ
合ナル説モ少カラス是ヲ評スルモ家柄ノ書ナ
レハ憚アリ暫爰ニ筆ヲ止何様弘治ノ頃ニセヨ
ドユヒト云名ノ見ヘタルモ新シカラス思フニ
トユヒハトウユヒノ畧言ナランカ又同結ト云
名ノ見ヘタルハ弓馬故實ニとうゆひと云事は
本式にはなき物也何とにしらへてもくるしか
らす間さ大ききさゆ所なとも又何にてゆひても
不若也ト見ヘタリ此書ノ卷尾ニ伊勢六郎左衛

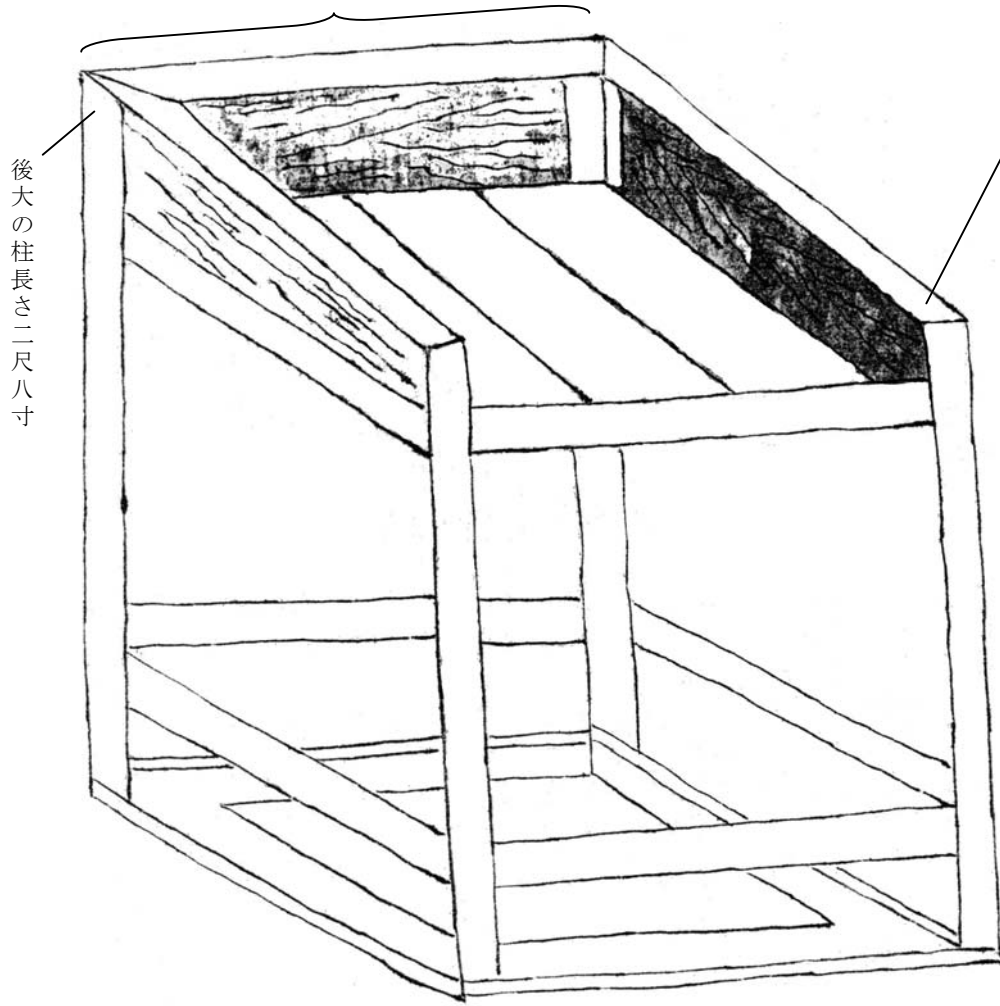
門尉平貞順記トアリ貞順ハ天文永祿ノ頃ノ人
ナレハ武田信豊ト同シ頃ナリ是モ新キ名呼ニ
アラスト知ヘシ此ドユヒ朧結トモ呼タル物
ヲ今當ハ卷藁ト云ナリ貞丈先生云トウユヒハ
ワラヲ丸クツカ子^ネテ繩ニテ三所ユヒ立テ置テ
矢ヲ射付テ弓ヲ習フウ具也今世ハ是ヲ横ニ置
テコクチヲ射ルコレヲマキワラト云ナリト記
サレタリ左ニ法量ノ卷ニ見ヘタルドユヒノ制
ヲ出ス熟見スヘシ

どゆひ臺之法量

とゆひの臺定法不可有かつかう能やうに
可作也少人などの臺は其人にしたがつて
可作之間例式よりばつくんにたるへし木
は松か檜にて可作也

首書ニ云トユヒ又ハトウユヒトモ云今ハ
マキワラト云○祐方云此首書ハ貞丈先生
ナリ朱ニテ記シ有也

川尻ノヤ固カ

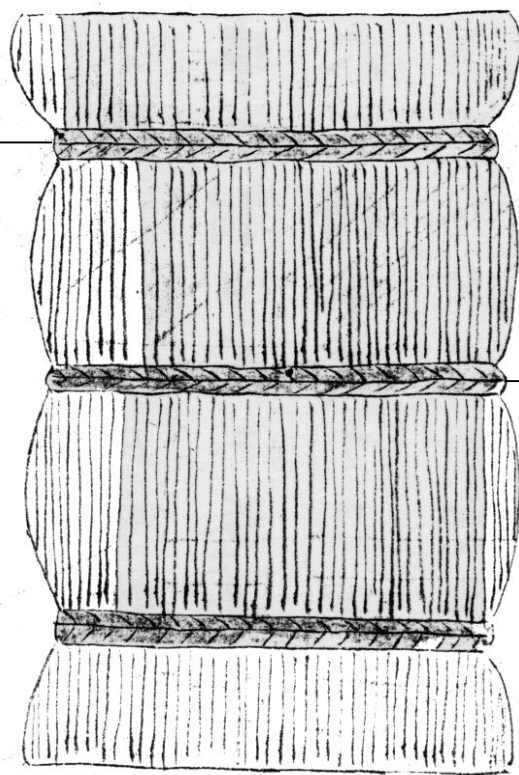


とゆひ長さ三尺六

ゆひめ右 上六寸計

中ゆひ左右の○の苧縄にてゆふ也

左右のねちわうたて上下かくことくゆふへし



とゆひ上菰あみめ五ふ也又は六所もあむへし口傳

右ニ模写ルトユヒノ制ハ法量之卷ニ見ヘタル
所ナリ今當ノ卷藁ト云モノハ射法一統ニ圖ヲ
出シタリ武射必用ニハ卷藁ノ制見ヘタリ左ニ
是ヲ揚タレハ合見テトユヒ胴結卷藁ト三名ア
レト其制ノ異ナラサルヲ明察スヘシ

一卷藁臺ノ事武射必用ニ卷藁臺四方三尺四寸上
ノ高三尺六寸檜本式ナリ四方ノ隅々ニ金具ヲ
遣フヘシト見ヘタリ四方三尺四寸トアレト卷
藁ノ大小ニ順テ定マラス則法量之卷ニとゆひ
の臺定法不可有ト見ヘタリ又上高三尺六寸ト

アリ是モ其人々ノ丈ノ長短ニヨリテ高モ底モ
心任ニ作ルヘシ定法ナシ又臺ヲ作ル木ハ檜本
式ナリトアリ本式トハ何ニヨリテ記シタル
ニヤ法量之卷ニハ木ハ松カ檜ニテ作ヘシトア
リテ檜ヲ以テ本式トスル
更ハ不見何ノ木ヲ以
テ作ルトモ子細ナシ又四方隅々ニ金具ヲ遣ハ
四方ノ隅離レ易キ所ナレハ此所ヲ堅固ニセシ
爲ニ金物ヲ遣ヒタルナリ逸見ノ弓書ノ卷藁臺
ノ圖ニ此金物ヲ遣ヒタル圖ナリ元來卷藁臺位
ノモノナレハタトヘ此所離タリ利用ニカクル

ホトノ更ニハアラス一ニハ見分ノ爲ナレハ好
ニ依テ金物不遣_レ托若シカラス

一 卷藁作りヤウノ事射法一統ニサシワタシ三尺
六寸長サ三尺六寸トアリ是ヲ今當ノ卷藁ノ定
寸トシタレ_レ托大小ハ不定制様武射必用ニ卷藁
制スルトハ先吉日ヲ撰_レ汚穢ナキ人ヲシテ是ヲ
作ラシムルヘシ右キ疊ヲクツシテ是ヲ中ノモ
ト立トシテソレヘ臺ヲ卷付々々ツカ子テ下結
ヲ古キ弦ニテシムル上薦ノ仕様ハワラノハカ
マヲトリテコモニ青キ苧繩ニテ六通ニ編ナリ

サテ陰陽ノ繩上ハ右繩ニテ左子チニ子チ結フ
下ノ繩ハ左繩ニテ右子チニ子チルナリトアリ
吉日ヲ撰ミ汚穢ナキ人ヲシテ作ラシムルトハ
何亶ソヤ可笑卷藁ヲ作ルニ吉日ヲ撰ニ不及義
ナリ素ヨリ汚穢アル者ヲ好ニハアラサレ忤忌
服ヲ改メ作ルヘキ程ノ事ニハアラス埒モナキ
説ナリ用ヘカラス又古タ、ミヲ中ノモト立ト
ストアレ忤不可也古タ、ミヲ中心ニシテハ固
リ出來テワロシ矢張新藁ニテ仕立ヘシ是ヲツ
カ子ルニ習アリ指渡シ三尺六寸ニセント思ハ

、小キ繩又ハ古弦ツキ合セ三尺六寸ヲ三半合^ッ

タル長<sup>三ッ半ノ長一丈
三尺六寸也</sup>ニシテ二筋長クハへ置キ

其上ニ藁ヲ入組サルヤウニ積重大概己カ思フ

程ニ積重^リタレハハへ置タル繩ノ兩端ヲ取テ堅

引^{シメ}テ試シテ藁遇タレハ取り足ラサレハ又足シ

思フ尺合ニナリタレハ上下共堅ク結留其上ノ

化粧ニ青繩ニテ編タル上菰ヲ卷キ菰ノ上ヲ太

ク左ヨリ右ヨリノ繩ニテ二所化粧結ヒヲスル

ナリ結様ハ三子^ッチテ結ヒ其余リヲ左右二角ノ

如ク出シ置タルナリ古代ノ胴結ニハ此化粧繩

ヲ小クシテ上中下ト三所結タリ今當ハ太クシ
上下ト二所結タル迄ノ差ナリト知ヘシ又射法
一統ニ卷ワラノウシロニ矢トメノ板ト云テ卷
ワラノ幅ホトニ厚一寸斗ナテモ卷ワラタケニ
シテタツル也是ヲ臆病板ト云ハ惡説也ト見ヘ
タリ如此卷ワラノ後ニ板ヲ立タルハ卷ワラヲ
射貫キタル時ノ用心ナレト鎮西八郎爲朝ノ弓
勢ハ知ラス今當ノ射手ハ卷ワラヲ射貫ホトノ
強弓ハ無之用心遇タルト云モノニテ用ユヘカ
ラス是モ好事ノ所意ト察ヘシ

射込桶

流傳曰射込桶ト云モノハ本ハ卷藁ヲ横ニシテ
小口ニ矢ヲ射付テ射術ヲ稽古修行セシニ矢数
重レハ卷ワラノ小口散乱ニ及ヒ毎度積シ度々

結直亘モ煩ハシキ故ニ射込桶

祐方云射込桶ノ
訓文字ノ通ナリ

ト云モノヲ工夫シタルモノナランカ勿論古ハ
無之近世ノモノニテ寸法制作ナト定マラス大
概桶ノ口指渡^シ一尺二三寸ヨリ一尺五六寸迄深
ハ二尺七八寸ヨリ三尺迄ナリ桶ノ敷ノ方四所
ニ長サ一尺余リ小口ニテ一寸余ノ角ナル木ヲ

鉄釘ニテ打此木ニ穴ヲ明ケ小キ苧繩ヲ通シ底
ヲ結ヒ留ル料トシタリ底ハ二重底ト云モノニ
スヘシ厚サ九八分ノ板ヲ二枚合一枚ハ桶ノ内
ニ入ホト九サシ一枚ハ桶尻ノ縁ニ冠ル位大シ
底ノ外ニナル方ニ十文字ニ木ヲ釘打ニシテ其
木ノ端ヲ底ノ巡リヨリ一寸ハカリ長ク出シ桶
尻ニカフラセ彼ノ四所ノ苧繩ニテ十文字ノ木
端ヲカケテ結ヒ留ル制也畧制ハ如此作ラス水
桶ナト如ク入底ニシタルモアレト藁ヲ詰カヘ
ル時桶ヲ逆ニシテ藁ノカタマリ突出ス亘ナラ

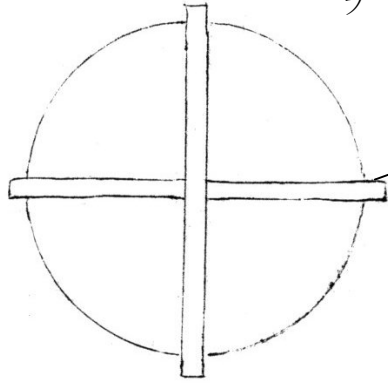
ル至テ不便利ナリ又桶ノ内ニハ藁ヲ詰タルヲ
最上トス此詰様程合アリ柔カニ詰タル時ハ底
ニ矢當リテ矢尻碎テ不可ナリ又詰様堅テハ射
込タル矢不立飛返リ散乱シテ煩シ柔カラス堅
カラス其程合度々詰カヘ試タル上ナラテハ自
得ナリカタシ又桶ノ縁ニ穴ヲ明ケ藁ヲ一握リ
ホトツカ子輪ヲシテ桶ノ内ニ入レ小キ糸ニテ
彼ノ穴ニ通シ閉付テ縁ヲ取り石ナキ細ナル砂
ヲ入タルモアレト是ハ見分而已ニテ弓ノ握ノ
アタ、マリノサメサルホト修行セル者ノ用ニ

ハ不立用ヘカラス

一臺ノ事是モ寸法定マラス桶ノ大小射手ノ丈ノ
高低ニヨル事ナリ其大概ヲ云時ハ四隅ノ柱ノ
長サ四尺八九寸ヨリ五尺余リ太^サ二寸七八分ヨ
リ三寸余リ貫ヲ上ト下ト二所ツ、四方ニ入ヘ
シ貫ノ廣^サ三寸位厚^サ五六分長^サハ臺ノ大小ニ順テ
定ヘシ前ト後ノ下ノ貫ハ桶ヲ指込ミ載置モノ
ナレハ前後トモニ少シク形ヲ付ヘシ此貫ヲ
入ル高ヲ定ルハ弓ヲ射ル如ク射臺ニ^{ヒサマツキ}踞弓手ノ
掌ヲ桶ノ正中ニ指付一文字ニ高ホト二下ノ貫

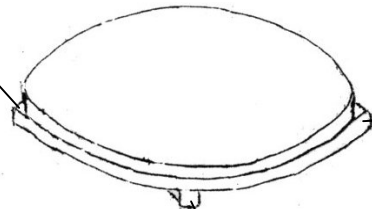
ヲ入ヘシ上ノ貫ハ桶ニ大サニ順テ入ヘシ左右
ノ貫ハ上下共前後ノ貫ト喰違ニ一段低ク下テ
入ヘシ猶委シクハ圖ニテ知ルヘシ

底ニ十文字ヲ
打タル圖



此四所ヲ繩ニテ結留

底ヲ横ニテ
見タル圖



此所桶ノ縁ニカフル

十文字ノ端四所ニ
アリ

此所桶ノ内ニ入ル分

臺

